第四百七十六條　土地ヲ賃借シタル時借主若シ偶然ノ事ニ因リ其收納物ヲ失フタルト雖モ其賃銀ヲ減セントヲ求ムル可カラス

第四百七十七條　若シ貸主原書ニ貸主トアル恐クハ借主ノ誤ナル可シト雖モ今茲ニ其儘譯ス偶然ノ事ニ因リ地ヲ耕シ或ハ種ヲ蒔クノ妨害ヲ受ケ又ハ其蒔キタル種ノ全部或ハ多分ヲ失フタル時ハ其賃銀ノ拂フニ及ハス又之ヲ拂フト雖モ其高ヲ減ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百七十六條　土地ノ借主其土地ニ樹木ヲ植タル時ハ培樹場中ニアル小樹ヲ除タノ外自カラ其樹木ヲ持去ル可カラス但シ貸主ハ已レノ兼諾ナク植ヘタル樹木ヲ借主ノ費用ニテ持去ラシメ或ハ其見積リ代價ヲ拂フテ之ヲ已レノ有ト為スヿ自由ナリトス

第四百七十九條　若シ貸主借主ヲシテ其樹木ヲ持去ラシムル時ハ其植易ヲ為シ得可キ季節ヲ待ツ可シ

第四百八十條　耕耘ス可キ土地又ハ樹木ヲ植ヘタル土地ハ貸主其收納物ノ一部ヲ已レニ納メシムル約束ヲ以テ之ヲ貸渡スヿヲ得可シ

第四百八十一條　右ノ貸渡ハ數年ノ期限間之ヲ契約スルヿヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ最終ノ年ノ收納ノ遅速ヲ問ハス其收納ノ後

其契約終ル可シ但シ此場合ニ於テハ如何ナル契約アリト雖モ亦同一ナリトス

第四百八十二條　若シ期限ヲ定メス右貸渡ノ契約ヲ為シタル時ハ一年ノ収納ヲ得ル間之ヲ契約シタルト看做ス可シ

第四百八十三條　右貸渡ノ契約書ニ別段ノ箇條ヲ記セサル時ハ其契約ヲ結ヒタル時其土地ニ在ル貸主所有ノ器具及ヒ獣類ヲ其貸渡契約中ニ保含ス可シ

第四百八十四條　若シ借受ケタル土地内ニ小屋及ヒ造築アル時ハ借主己レノ費用ニテ之ヲ修理ス可ク又借主ハ懇切ニ注意シテ土地ヲ植附ク可シ但シ借主ハ別段ノ契約アラサル時ハ旧廃シタル器具ニ代ヘ新ナル器具ヲ備フ可シト雖モ自己ノ過失ニ非ラスシテ死シタル獣類ハ増殖シタル獣類ヲ以テ之ヲ償フ可キノミトス

第四百八十五條　貸主ニ収納物ノ一部ヲ分ツ可キ契約ヲ以テ土地ヲ借受ケタル時ハ借主ノ死去又ハ借主ノ耕耘ヲ妨ケラレシ事故ニ因リ其契約ヲ終フ可ク又貸主ハ借主ニ未タ苅取ラサル収納物ヲ作ル為メ出シタル費用ヲ償フ可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第二款　人身ノ賃貸及ヒ勞力ノ賃貸

第四百八十六條　人身ノ賃貸ハ特ニ定メタル

用向ノ為メ契約書ニ記スル期限間之ヲ為シ又ハ別段定メタル工業ノ為メ之ヲ為ス可シ

第四百八十七條　總テ使用ヲ受クル者工丁僕婢ノ雇入契約ハ期限アル時間ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス

第四百八十八條　契約書ニ雇入契約ノ期限ヲ定メタル時雇主若シ其契約ヲ取消スニ於テハ其雇人ノ更ニ他ニ雇ハルヽヲ得可キニ至ル迄ノ時間ノ雇賃ヲ雇主ヨリ償フ可ク又遠地ヨリ其雇人ヲ呼寄セタル時ハ其旅費モ亦之ヲ償フ可シ

第四百八十九條　若シ雇入ノ期限ヲ定メサル時ハ雇主又ハ雇人ノ雙方ニテ何時ニ於テモ其契約ヲ取消ス可シ但シ之レカ為メニハ其契約ヲ取消スヿノ時宜ニ適シタルヲ必要トス

第四百九十條　拂ヒ期限ニ至リシ雇賃ノ高又ハ既ニ拂ヒ濟マシニナリシ雇賃ノ高ヲ定ムルニ付テハ習慣ニテ許ルシタル証ヲ立ツルヿヲ得可シ

第四百九十一條　特ニ定メタル工業ノ為メ勞力ヲ賃貸スル契約ハ總テノ工業ニ付キ請負ニテ之ヲ為シ又ハ使用ヲ受クル時間或ハ成就シタル工業ニ准シ定メタル價ニ從ヒ之ヲ為スヿヲ得可シ

第四百九十二條　如何ナル場合ニ於テモ雇主

ハ工業ノ起作人ニ其用意ヲ為スニ付キ出シタル費用ヲ償フテ其工業ヲ止メシムルヿヲ得可シ

第四百九十二條　然レトモ雇主特ニ定メタル期限間工丁或ハ起作人ヲ雇ヒ又ハ請負ノ約束ヲ以テ之ヲ雇ヒタル時雇主若シ其雇入ノ契約ヲ取消スニ於テハ其契約ノ執行ヨリ工丁起作人等ノ得可キ諸般ノ利益ヲ償フ可シ

第四百九十四條　建築者ハ圖面及ヒ見積書ヲ作ルニ付テノ雇賃ト工業ヲ監督スルニ付テノ雇賃トテ得可シ

第四百九十五條　若シ契約ノアラサル時ハ習慣ニ從テ右ノ雇賃ヲ定ム可シ

第四百九十六條　若シ註文シタル圖面ノ如ク執行ハサル時ハ使用シタル時間ト工業ノ種類トニ准シテ右ノ雇賃ヲ定ム可シ

第四百九十七條　若シ造築シタル建造物ノ十年内ニ破壞スル時ハ縱令其土地ノ不良ナルニ因リ且ツ雇主ノ其不良ナル造築ヲ兼諾シタル時ト雖モ其起作人及ヒ建築者ハ互ニ連帶シテ其責ニ任ス可シ但シ雇主其不良ナル造築ノ兼諾セシ時雙方ノ意ニテ其建造物ノ存續スル時間十年以下ナル可シト定メタルヲ知リ得可キ場合ハ格別ナリトス

第四百九十八條　工業ヲ監督ス可キ任ヲ受ケサル建築者ハ其作リシ圖面ノ不良ナル責ノ

ミニ任ス可シ

第四百九十九條　勞力賃貸ノ契約ハ雇人ノ死去又ハ其勞動ヲ妨クル偶然ノ事ニ因リ之ヲ解除ス可シ

第五百條　前條ノ場合ニ於テハ雇主已レノ為メ有益ナル可キ財料ヲ其原價ニテ買入レサルヲ得ス

第五百一條　總テ起作ハ其工業ヲ成就シタル後ニ非サレハ之ヲ規定ス可カラス故ニ工業ヲ為ス間ニ規定シタル模樣書ハ假リノ者トシ其間ニ拂ヒタル金高ハ内金ト看做ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百二條　起作人ハ契約書ニ其工業ヲ更ニ他人ニ任カス可カラサル旨ヲ定メタルニ非サレハ其工業ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ任カスルヿヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ起作人其工業ヲ任カセタル者ノ所為ノ已レニ擔當ス可シ

第五百三條　起作人ヨリ工業ヲ任カセラレタル者ハ雇主ノ起作人ニ金高ヲ渡ス可キヿヲ已レヨリ差留ノタル時又ハ其後雇主ノ起作人ニ渡ス可キ高ノミニ付キ其雇主ニ對シテ訴ヲ為スノ權アリ

第五百四條　起作人ヨリ工業ヲ任カセラレタル數人ハ各〻其得可キ賃銀ノ割合ヲ以テ前條

ニ記シタル金高ニ付キ先取リノ特權ヲ有シ
雇主ハ裁判所ノ言渡書ナリシテ右數人ニ直
カニ其金高ヲ渡スヿヲ得可シ

第五百五條　勞力賃貸ノ契約ヲ為シタル時ハ
其附帶ノ約束トシテ財料ノ全部又ハ一部ヲ
備辨ス可キヿノ定ムルヲ得可シ

第五百六條　工丁ヨリ財料ヲ備辨シタル時ハ
其工丁其財料ノ損失ヲ己レニ擔當ス可シ但
シ雇主工丁ヨリ其財料ヲ受取ル可キノ催促
ヲ受ケ之ヲ受取リ又ハ其催促ヲ受ケテ其財
料ヲ承諾シ又ハ其催促ヲ受ケテ猶之ヲ受取
ラサル時其財料ノ滅盡シタル塲合ハ格別ナ
リトス

又請負ノ契約ヲ為シ雇主ノ財料ヲ備辨セシ
塲合ニ於テ若シ偶然ノ事ニ因リ其財料ノ滅
盡シタル時ハ雇主ハ其財料ヲ以テ損失ト為
シ工丁ハ其雇賃ヲ以テ損失ト為ス可シ

第五百七條　請負ニテ工業ヲ起作スル者ハ辞
柄ノ唱ヘテ代價ノ増サントスルヿヲ求ム可カラス但
シ雇主ノ過失ニ因リ費用ヲ増シタル時ハ格
別ナリトス

第三章　會社ノ契約

第一款　會社ノ契約

第五百八條　會社ノ契約トハ二人以上ニテ共

通ノ業ヲ行フ為メ互ニ金高又ハ物件ヲ出シ合セ其業ヨリ得可キ利益ヲ互ニ分タントスル契約ヲ云フ

第五百九條　社員ヨリ會社ニ供フル物ハ或ハ金高或ハ動産又ハ不動産或ハ此等ノ物ノ入額所得ノ權タルヲ得可シ

又其社員ハ其勞力ノミヲ會社ニ供フルヿヲ得可シ

第五百十條　別段ノ契約アラサル時ハ物件所有ノ權ニ至ル迄之ヲ會社ニ供シタルモノト看做ス可ク其入額所得ノ權ノミヲ供シタルモノト看做ス可カラス

第五百十一條　會社ニ供フル物ハ其種類ヲ定ム可ク若シ社員ノ現ニ所有スル諸般ノ財産ヲ供フル時ハ其財産ノ目録ヲ記ス可シ

第五百十二條　社員ハ契約シタル期日ニ至リ其物件ヲ會社ニ供ス可シ

第五百十三條　社員ヨリ會社ニ供シタル物件所有ノ權又ハ入額所得ノ權ハ會社ノ契約ニ因リ之ヲ會社共通ノタメト為シ會社ニテ之ノ擔當ス可シ

第五百十四條　社員ハ其會社ニ供セン物件ニ付キ之ヲ賣リタル時ト同シ保証ヲ為スノ義務アリ

第五百十五條　社員其會社ニ供ス可キ物件ノ引渡ヲ遲延シタル時ハ其催促書ヲ受ケタル

ニ因リ會社ニ對シ損失ノ償ヲ為ス可キ義務アリ

第五百十六條　右遲延ニ因リ會社ノ為メ損失ヲ生セシ時ハ其社員ヨリ其損失ヲ償フ可ク縱令其者會社ノ為メ別ニ利益ヲ生セシメンアリト雖モ其利益ト損失トヲ相殺ス可カラス

第五百十七條　社員ハ其會社ニ對シ負フタル所ノ債ノ利息ヲ當然拂フ可ク又會社ニ供セシ金高ノ利息ト正實ノ意ヲ以テ踈失ナク會社ノ為メ出シタル費用高ノ償還トヲ得可シ

第五百十八條　社員ハ會社ノ權利ニ注意スルヿ自己ノ權利ニ注意スルカ如クナル可シ

第五百十九條　會社ヨリ社員ニ對スル義務ハ各社員ニ之ヲ分配ス可ク若シ社員中ノ一名其義務ヲ行フ能ハサル時ハ其者ノ擔當ス可キ部分ヲ他ノ社員ニ割附ク可シ

第五百二十條　各社員ニ利益ヲ分配スル割合ハ契約書ニ之ヲ定ム可シ

第五百二十一條　若シ契約書ニ右ノ割合ヲ定メサル時ハ各社員ノ会社ニ供セシ高ニ准シテ其割合ヲ定ム可シ

第五百二十二條　勞力ノミヲ会社ニ供セシ社員ニ利益ヲ分配スル割合ハ最少ノ高ヲ會社ニ供セシ社員ノ割合ト同一タル可シ

第五百二十三條　若シ社員其勞力ト物件ト会社ニ供シタル時ハ其物件ニ付テハ最少ノ高ヲ會社ニ供シタル社員ニ同シキ利益ノ割合

ヲ得可レ

第五百二十四條　若シ期限ニ至テサル中ニ會社ヲ解キタル時ハ勞力ノミヲ会社ニ供セシ社員其会社ノ継続シタル時間ノミノ割合ヲ以テ會社資本ノ分配ヲ得可レ

第五百二十五條　別段ノ契約アラサル時ハ社員ノ損失ヲ擔当スヘキ割合ヲ利益ヲ分配スル割合ト同一ニ為スヘシ

第五百二十六條　社員中ノ一人又ハ數人会社ノ利益ニ加ハラス又其損失ヲ擔当セサル契約ハ之ヲ為スヘカラス

第五百二十七條　然レトモ勞力ノミヲ会社ニ供スル社員ハ会社ノ損失ヲ擔当セサル契約ヲ為スヿヲ得可シ但シ其社員ノ勞力ニ准シ給料ヲ與フル時ハ此例ニ非ス

第五百二十八條　社員ハ會社ノ支配人一名又ハ數名ヲ任スルヿヲ得可レ

第五百二十九條　社員ニ非サル支配人ハ何時ニテモ其職ヲ退カレムルヿヲ得可シ

第五百三十條　社員ニテ支配人トナリシ者ハ会社ノ契約書ヲ以テ之ヲ任シタル時ニ非サレハ其職ヲ退カレムルヿヲ得可レ

第五百三十一條　又会社ノ契約書ヲ以テ任シタル支配人ト雖トモ其ニ至重ノ道理アルトキハ其職ヲ退カレムルヿヲ得又無名会社ニ在テハ至重ノ道理ナシト雖モ其職ヲ退カレムルヿヲ得

可シ

第五百三十二條　若シ別段支配人ヲ指定ヲサルトキハ各社員互ニ支配人タル位ヲ負ケレモノト看做シ一人ニテ支配ノ事務ヲ行フヲヲ得可シ但シ此事ニ付キ爭ヲ生スルトキハ社員中多數ノ裁決ニ任カス可シ

第五百三十三條　縱令支配人一致シテ決定ヲ為シ又ハ社員中ノ多數決定ヲ為シタルトキト雖ドモ会社ノ旨趣ト為ス所ニ非サル所為ハ之ヲ行フ可カラス又契約書ニ定メシヨリ更ニ多數ノ金高ヲ会社ニ供セシムル可カラス但シ其通ノ負債ヲ償ヒ又ハ会社ノ財産ヲ保全スル為メ其費用ヲ拂フ可キトキハ格別ナリトスシ

大審院

其通ノ負債ヲ償ヒ又ハ會社ノ財産ヲ保全スル為メ其費用ヲ拂フ可キ時ト雖ドモ会社ノ社員又ハ無名会社ノ株主ニ付テハ之ヲ（コムマンゲート）レラ契約書ニ定メシヨリ更ニ多數ノ金高ヲ会社ニ供セシム可カラス

第五百三十四條　支配人ニ非サル社員ハ支配人ヲシテ其支配ノ模様ヲ申立シムルヿヲ得可シ

第五百三十五條　別段ノ契約アラサルトキハ社員其会社ニ於ケル權利ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓ル可カラス唯（其会社外ノ者ニ已レノ得タル利益ヲ分配スルヿヲ得可キノミトス

第五百三十六條　商業会社ヲ除クノ外總テノ

大審院

會社ニ於テハ已レノ名ヲスラ他人ト契約シタル社員已レ一身ニ其契約ノ義務ヲ負フ可シ但シ共會社ニ於テハ縱令商業ノ為メ會社ヲ結ヒタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第五百三十七條　又社員ノ名又ハ會社ノ名ニテ他人ト契約ヲ為スノ委任狀アル時ハ各社員他人ニ對シテ平等ナル義務ノ部分ヲ擔當スヘク連帶ヒテ其義務ヲ擔當スルニ及ハス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百三十八條　如何ナル場合ニ於テモ社員ニ非サル者ハ各社員ニ對シ會社ノ所為ヨリ生シタル利益中其各員ノ部分ニ付キ訴ヲ為スヲ可キノ權アリ

第五百三十九條　會社ノ契約ハ左ノ方法ニ因テ終ル可シ

第一　會社ヲ契約シタル期限ノ終ル事

第二　會社ノ結ヒシ眼目タル事業ノ成就スル事

第三　共通ノ資本ヲ全ク失ヒ又ハ其中ノ多分ヲ失ヒ事業ヲ繼續スル能ハサル事

第四　約束通リ資本金ヲ供セサル事

第五　別段ノ契約アラサル時社員中一名ノ死去シ又ハ行權ノ禁ヲ受ケ又ハ家資分散ヲ為シタル事但シ連帶セ

ナル社員ノ死去行權ノ禁家資分散ニ因リ解散スヘカラサル商業会社ニ付キ定メタル規則ハ格別ナリトス

第六　諸社員ノ存意

第七　会社ノ期限ヲ契約マサル内其社員十一名ノ退去スル事但シ其退去正実ノ意ニ出テ且ツ時宜ニ適シタルヿヲ必要トス

第三百四十条　會社ハ社員ノ其義務ヲ執行ハサルニ因リ又ハ会社ノ事業ノ進行ヲ妨ツル重大ノ議論ニ因リ又ハ其他至重ナル原由ニ因リ社員中一人ノ求メニ依テ裁判所ヨリ之ヲ解散スヘキヿヲ言渡スヲ得可シ

第五百四十一條　前數條ニ記スル規則ハ諸般ノ会社ニ通シ用ユルヿヲ得可シ但シ商業ノヿニ付キ商法ニ記スル処ハ格別ナリトス

第二款　會社ノ分派及ヒ其他ノ分派

第五百四十二條　會社ノ財産ハ契約書ニ記シタル方法ニ依テ之ヲ各社員ニ分派スヘシ

第五百四十三條　若シ契約書ニ財産分派ノ方法ヲ記セサル内ハ民法上ノ会社ニ於テハ各社員ノ世話ヲ以テ其分派ヲ為シ又商法上ノ會社ニ於テハ社員多數ノ選任シタル算計者一名又ハ數名ノ世話ヲ以テ其分派ヲ為シ若シ社員ノ多數其等計者ヲ選任スルニ付キ協

俄セサル時ハ裁判所ヨリ任シタル筭計者一名又ハ數名ノ世話ヲ以テ其分派ヲ為スヿ可シ

第五百四十四條　古筭計者ハ糶賣又ハ通常ノ賣買ニテ會社ノ財産ヲ賣拂フノ權アリ但シ其選任ヲ得ル証書ニ其者ノ權限ヲ記スル時ハ格別ナリトス

第五百四十五條　会社ノ分派ノ外共通ノ財産ヲ分派スヿ可キ場合ニ於テ其財産ヲ共通スル數名皆自己ニ財産ヲ自由ニ為スヲ得可キ權アル時ハ互ニ協議シテ其好ム所ノ方法ニ循ヒ分派ヲ為スヿヲ得可シ

第五百四十六条　若シ右數名ノ者互ニ協議セサル時又ハ其中ニ自己ノ財産ヲ自由ニ為スヲ得可カラサル者アル時ハ其財産ヲ分派セントスル他ノ共通者ヲ社中所在ノ地ノ裁判所又ハ財産所在ノ地ノ裁判所ニ吟出スヿ若シ又動産ニ管スル時ハ被告人中一人ノ住所ノ裁判所ニ之ヲ吟出シ其分派ヲ監督スヿ可キ旨ヲ裁判役一名ト評價ヲ為シ且財産ノ區分ヲ為スヿ可キ評價人一名又ハ數名トヲ任スヿ可キヿヲ裁判所ニ求ムヿ可シ

第五百四十七條　評價ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ為スヿ可シ

第五百四十八條　若シ財産ヲ品物ノ侭分派シ得可キ時ハ裁判所ニ於テ掛リ裁判役ノ中立ヲ應キタル上財産ノ區分ニ管シタル爭ヲ裁

決スヘシ

第五百四十九條　若シ其訴訟ニ管シタル者ノ中ニ幼者又ハ行權ノ禁ヲ受ケシ者アル時ハ必ス裁判所ヨリ其財産區分ニ允許スル言渡ヲ受ケサル可カラス

第五百五十條　區分シタル財産ヲ圍引ニ為シ合配スルヿハ裁判官前ニテ之ヲ為シ掛リ裁判役其旨ヲ調書ニ記ス可シ

第五百五十一條　若シ財産ヲ品物ノ侭分流スルヿヲ得サル時ハ訴訟法ニ記シタル法式ヲ以テ之ヲ賣拂フ可シ

第五百五十二條　財産ヲ品物ノ侭分流シタル時ハ其各共通者ヨリ其區分セシ財産ヲ得タル者ニ對シ互ニ其財産ヲ賣買シタルト看做シ之ヲ賣買シタルトキハ同一ノ効ヲ生ス可シ

第五百五十三條　共通ノ財産ニ付テ權利ヲ得タル債主ハ其財産分流ノ前ニ總テノ共通財産ニ付キ其權利ヲ行フ可キノ訴ヲ為スヿヲ得ヘシ

第五百五十四條　右債主ハ其償ヲ得ルニ至ル迄ハ共通ノ財産ヲ品物ノ侭分流スルヲ抗拒スルヿヲ得可シ

第五百五十五條　右債主ノ其分流ヲ拒シタル時及ヒ共通者中甲者ノ債主他ノ共通者ニ其甲者ニ區分セシ財産ヲ引渡ス可カラサル旨ヲ告知セシトキハ財産渡方ノ差留ニ等シキ効

アリトス

第五百五十六條　前條ニ記シタル各債主ヲシテ諸般ノ手続ニ立会ハシムルニ非サレハ共通ノ財産ヲ賣拂フ可カラス

第五百五十七條　共通ノ財産ニ付キ権利ヲ有スル債主ハ其財産ヲ合汎スル内共通者一身ニ付テノ債主ニ先チテ其償ヲ得ルノ権アリ

第五百五十八條　若シ共通者中ノ甲者ヨリ其共通セシ財産ハ部分ヲ他人ニ賣リタル内ハ共通者中ノ乙者其合汎ヲ為スニ至ル迄ノ間ニ其買主ニ代價ト貸賃及ヒ其他已ムヲ得サル費用トヲ償ヒ其賣リタル部分ヲ買戻スヿヲ得可シ

第五百五十九條　各共通者ハ其共通スル財産ノ部分ノ割合ヲ以テ先キ買ヲ為スノ権アリ

若シ又其通者中數名ノ其先キ買ノ権ヲ行ハカル内ハ其中ノ一名其財産ノ全部ニ付キ先キ買ノ権ヲ行フヿヲ得可シ

第五百六十條　共通者中ノ一名ハ共ニ財産ヲ所有スル者（財産ヲ共ニ所有スル者ハ共同ノ社中ニ加ハラサル者ニ對スル内ト雖ドモ先キ買ノ権ヲ行フヿヲ得可シ）

但シ其所有者ハ已レノ部分ニ付テハ引留ノ権ヲ行フヿヲ得可シ

第四章　賃借ノ契約

前ニ記スル賃貸ノ契約ト混ス可

大審院

カラス又ハ準陰ノ契約

第五百六十一條　貸借ノ契約ニ二種アリ

物ノ貸借

物ノ貸借

消尽スル物ノ貸借（ヴェルブラウヒボーロコ）

消尽スル可キ物ノ貸借（ヴェルブラウヒバレ）

第五百六十二條　消尽セサル物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ニ物品ヲ渡シ之ヲ用ヒシメ借主約束期限ニ至リ其物品ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百六十三條　消尽ス可キ物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ニ物品所有ノ権ヲ移シ借主約束期限ニ至リ其物品ニ代ヘラ之レト同種同量ノ物ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百六十四條　契約書ニ貸借ノ種類ヲ記セサル時ハ貸主及ヒ借主ノ模様ト物品ノ品質トニ從テ其種類ヲ定ム可シ

第一款　消尽セサル物ノ貸借

第五百六十五條　消尽セサル物ノ貸借ハ其本姓ヨリ貸銀ヲ要セサルモノトス

第五百六十六條　借主ハ已レノ過失ニ因リ其借入レタル物品ヲ滅尽セシメ又ハ之ヲ毀損シタルノ責ニ任ス可シ但シ其過失如何ニ細小ナル時ト雖モ亦同一ナリトス

第五百六十七條　借主ハ其借入レタル物品ヲ保全スルニ付キ意ヲ用フルヿ丁寧懇切タル可シ

第五百六十八條　借主ハ其借入レタル物品ヲ

約束シタル以外ノ用法ニ用フヲカラス

第五百六十九條　若シ借主其借入レタル物品ヲ約束セシ以外ノ用法ニ用ヒ又ハ約束シタル期限ニ至リシ後猶之ヲ用フル時ハ借主其借賃ニ当ル可キ償ヲ出ス可シ但シ其借入レシ物品ヲ用フルヿノ適度ニ過クルニ因リ其物品ヲ毀損シタル時ハ亦其損害ノ償ヲ為ス可シ

第五百七十條　若シ借主其借入レシ物品ニ修理ヲ加フ可キ時其旨ヲ貸主ニ報告スルノ暇アラサル時ハ貸主ニ對シ其費用ノ償ヲ得ンヿヲ要ムルヿヲ得可シ然シ此借主ハ其借入レシ物品ノ小補理ノ費用ヲ己レニ擔当セサル

ヲ得ス

第五百七十一條　借主ハ約束シタル期限ニ至リ其借入レシ物品ヲ還ス可ク又其期限ニ至ラサル前ニ之ヲ還スニ及ハス

第五百七十二條　別段還ス可キ期限ヲ定メサル時ハ其物品ヲ借入レタル眼目ノ用法ニ用ヒタル後ニ之ヲ還ス可シ

第二款　純尽ス可キ物ノ貸借及ヒ年金ノ契約

第五百七十三條　純尽ス可キ物ノ貸借ニ於テハ借主其物品所有ノ權ヲ得タル時ヨリ其場品ヲ己レニ擔当ヲ可シ

第五百七十四條　貨幣ヲ貸借シタル時ハ其貸

借ノ後其相場如何ニ変易セシニ管セス其借リタル通リノ高ヲ還ス可シ

第五百七十五條　借主ハ約束シタル期限ニ至リ其物品ヲ還ス可シ

第五百七十六條　若シ右ノ期限ヲ定メス又ハ借主ノ都合次第還ス可キノ契約ヲ為シタル時ハ裁判役其借入品ノ還ス可キ期日ヲ定ム可シ

第五百七十七條　借主ハ嘗テ物品ヲ借入レタル場所ニ於テ之ヲ還ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百七十八條　純尽ス可キ物ノ貸借ハ貸銀ヲ要セサルモノトス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百七十九條　契約シタル利息ハ百分ノ十二ニ過ク可カラス

第五百八十條　利息ヲ得テ貸借ヲ為ス契約ヲ結ヒタル時ハ貸主ハ決シテ其元金ヲ取還サントホム可カラス又借主ハ何時ニテモ之レヲ還スヲ得可キ約束ヲ加フルヿヲ得ヘシ

第五百八十一條　前條ノ場合ニ於テハ其貸借ノ契約ヲ名ケテ年金ト云フ

其利息ヲ名ケテ年金利息ト云フ

第五百八十二條　然レトモ借主若シ其義務ヲ行ハス又ハ契約通リ保証ヲ立フルヲ肯セス或ハ保証ノ高ヲ減損シ又ハ家資分散ノ言渡ヲ

受タル日ハ貸主裁判所ヨリ其元金ヲ取還ス可キ言渡ヲ得ル ノ権アリ

第五百八十三條　年金ハ法律上ニ定メタル利息ヨリ更ニ多数ノ利息ヲ以テ之ヲ設ケ定メタル其利息ハ特ニ定メタル期間ノ間之ヲ得可シ但シ其利息ハ貸主ノ畢生間之ヲ出シ又ハ年金ヲ設ケ定メタル日生存セシ者ノ畢生間之ヲ出スヿヲ得可シ

第五百八十四條　前條ノ場合ニ於テハ元金ヲ償却スルヿナク約定セシ期限毎ニ其拂フタル利息ヲ以テ次第ニ其元金ノ消却ス可シ

第五百八十五條　年金ノ貸主ハ借主其義務ヲ行ハサル時又ハ其保証ヲ立フルヿヲ肯セス或ハ其保証ノ高ノ減損シタル日又ハ借主ノ家資分散シタル時ハ借主ノ財産ヲ賣拂ヒ其代價中相当ノ金高ヲ年金ノ利息ヲ得ルニ充テ用フルヿヲ得可シ

第五百八十六條　賣買ノ契約ヲ為スニ付キ又ハ其他ノ契約ヲ為スニ付キ設ケ定メタル無期ノ年金及ヒ畢生間ノ年金又ハ償ヲ要セサル約束ニテ設ケ定メタル無期ノ年金及ヒ畢生間ノ年金ハ前數條ノ規則ニ循フ可シ

第五章　附託ノ契約

第五百八十七條　附託ノ契約トハ甲者ヨリ乙

者ニ動産ヲ託シタル者報謝ヲ約スルヿナク其動産ヲ自己ノ動産ト同シク監守シ甲者ノ求メ次第其侭ニテ之ヲ還ス可キ契約アル片ハ附託ノ契約ヲ勞力賃貸ノ契約ノ規則ニ循ヒ之ヲ規定ス可シ

第五百八十九條　附託ヲ受ケシ者ハ契約シタル期限ニ至ラサル前ニ其附託ヲ為シタル者ヲシテ強テ其物品ヲ取還サシム可カラス

第五百九十條　附託ヲ受ケシ者ハ已レノ重大ナル過失ノ責ニ任シ且ツ契約書ニ定メタル如ク懇切ニ注意ヲ加ヘサルノ責ニ任ス可シ

第五百九十一條　附託ヲ受ケシ者ハ其附託ヲ受ケタル物品ヲ用フ可カラス若シ之ヲ用フ

レハ其附託ヲ為シタル者ニ其損害ヲ償フ可シ

第五百九十二條　附託ヲ受ケシ者ノ附託ヲ為シタル者又ハ其代権人ニ其物品ヲ還ス可シ

第五百九十三條　附託ヲ為シタル者ノ物品ヲ保全スルニ付テノ費用ト其物品ノ為メノ損害トヲ附託ヲ受ケタル者ニ償フ可シ

第五百九十四條　附託ヲ受ケシ者ハ已レノ得可キ金高ノ償ニ充ツル為メ其物品ヲ引留ムルノ権アリ

第五百九十五條　物品ノ附託ヲ受ケル原由ニ付キ報謝ヲ受クル者例ヘハ旅舍ノ主人荷物ノ運送人等ノ如キハ其物品ヲ失フタルノ責

ニ任ス可シ但シ抗拒ス可カラサル力ノ為メ之ヲ失フタルノ証アル時ハ格別ナリトス

第五百九十六条　物品ニ付キ爭ヲ生シタルニ因リ若シ其附託ヲ為シタル時ハ附託ヲ受ケシ者ヨリ相爭フ双方ニテ指定ヲタル人又ハ裁判所ニテ指定ヲタル人ニ之ヲ還ス可シ

第五百九十七条　双方ニテ相爭フ物品又ハ裁判所ニテ預リシ物品ノ附託ヲ受ク可キ者ハ裁判所ヨリ之ヲ指定ムルヿヲ得可シ但シ裁判所ニ於テハ相爭フ一方ノ者ヲ其附託ノ受ク可キ者ト為スヿヲ得可シ

第五百九十八條　双方相爭フ物品ノ附託ニ付テハ其報謝ヲ定ムルヿヲ得可シ但シ不動産ト雖モ双方相爭フ時ハ之ヲ附託スルヿヲ得可シ

第五百九十九条　如何ナル場合ニ於テモ通常ノ附託ヲ受クル者又ハ双方相爭フ物ノ附託ヲ受タル者ハ其物品ヨリ生シタル利益ヲ還ス可ク且之ヲ還ス可キノ催促ヲ受ケタル時又ハ已レノ資益ノ為メ其物品ヲ用ヒタル時ヨリ其附託ヲ受ケシ金高ノ利息ヲ拂フ可シ

第六百條　若シ附託ヲ受ケシ者ノ代権人正実ノ意ヲ以テ其物品ヲ賣リタルトキハ其受取リタル代金又ハ買主ニ對シ訴訟ヲ為ス可キノ権ヲ其附託ヲ為シタル者ニ譲リ与フ可シ○若シ右代権人其物品ヲ人ニ贈遺ト為シタル

ハ其物品ノ見積リ代價ヲ附記ヲ為シタル者ニ渡スヲ可シ

第六章　保証ノ契約

第六百一條　保証ノ契約トハ若シ甲者其義務ヲ行ハサル時乙者之ニ代テ其義務ヲ行フヲ可キヲ定ムル契約ヲ云フ

第六百二條　義務ヲ行フヲ可キ者自己ノ權利ヲ行フヲ能ハサルニ因リ保証ノ契約ヲ為シタル時ノ外主タル義務ノ効ナキトキハ其保証ノ契約モ亦其効ナカル可シ但シ主タル義務ヲ行フヲ可キ者ニ告知セスト雖モ其義務ノ保証ヲ為スヲ得可シ

第六百三條　保証ハ義務ノ高ハ主タル義務ヨリ更ニ多カル可カラス又保証ノ義務ハ主タルハ義務ヨリ更ニ重劇ナル可カラス

第六百四條　然レトモ保証ノ義務ノ高ハ主タル義務ヨリ更ニ少ナキヲ得可ク又保証ノ義務ハ主タル義務ヨリ更ニ軽寛ナルヲ得可シ

第六百五條　別段ノ契約アラサル限リハ保証ノ義務ヲ主タル義務ノ附從タル諸件（利息費用等ノ如キヲ云フ）ニ及ホス可カラス又保証人ヲシテ主タル義務ヲ行フヲ可キ者ト連帶セシム可カラス

第六百六條　裁判所ノ言渡ニテ命セラレタル

保証ノ義務ハ利息費用及ニ附従ノ諸件ニ当然及ホス可ク且ツ主タル義務ト連帶ヤサル可カラス

第六百七条　主タル義務ヲ行フ可キ者契約上ノ保証人又ハ裁判上ノ保証人ヲ立ツ可キ丁ヲ約束シタル片若シ最初ノ保証人其義務ヲ行フ能ハサルニ至ルニ於テハ更ニ他ノ保証人ヲ立テサル可カラス

第六百八条　保証人ヲ立ツ可キノ義務ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ行フ可シ

第六百九条　主タル義務ヲ行フ可キ者ト連帶セサル保証人ハ主タル義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義務ノ全部ヲ行フニ充テ用ヤシムルニ足ル可キ片ハ義務ヲ行ハシム可キ者タシテ其義務ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ為サシム可キノ要メヲ為スヿヲ得可シ但シ保証人其要メヲ為ス可キ権利ヲ抛棄シタル片ハ格別ナリトス

故ニ裁判所ニ於テハ義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ保証人ニ對シ為シタル訴訟ヲ暫ク停止セシム可キト否トヲ裁断ス可シ但シ其義務ヲ行ハシム可キ者ノ権利ヲ保護ス可キ所為ヲ行フハ格別ナリトス

第六百十條　主タル義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ之ヲ行フ可キ者ニ猶務ノ期限ヲ許ルシタル片ト雖モ保証人ハ主タル義務ヲ行フ可キ

期限ニ至リ之ヲ行フヲ可キ者ニ對シ訴ヲ為スノ權アリ但シ主タル義務ヲ行ハシム可キ者保証人ノ義務ヲ釋放シタルトキハ格別ナリトス

第六百十一條　又保証人ハ主タル義務ヲ行フヲ可キ期限ニ至ラサル前ト雖モ其義務ヲ行フヲ可キ者若シ家資分散ヲ為シタルトキハ其者ニ對シテ訴ヲ為スノ權アリ

第六百十二條　若シ同一ノ主タル義務ニ付キ一通ノ証書ヲ以テ保証人數名ヲ立フルト雖モ其數名ノ互ニ連帶ス可キヿヲ契約セサルトキハ義務ヲ行ハシム可キ者各保証人ニ對シ其各々擔当ス可キ部分ノミニ付キ訴訟ヲ為スヿヲ得可シ

第六百十三條　若シ保証人數名漸次ニ記シタル証書ヲ以テ其義務ヲ契約シタルトキハ其互ニ連帶センヿヲ思料ス可カラス然レトモ其時ノ景況ニ因リ其數名ヲ互ニ連帶シタルモノト定ムルヿヲ得可シ

第六百十四條　保証人主タル義務ヲ其期限ニ至リ行フタルトキハ其義務ヲ行フ可キ本人ニ對シ訴訟ヲ為スノ權アリ但シ保証人ハ義務ヲ行ハシム可キ者ノ權ニ代ハルヿヲ得可シト雖モ其者ヨリ後ニ非サレハ其權ヲ行フヲ得ス

第六百十五條　連帶シタル保証人數名アリテ

其中ノ一名主タル義務ノ全部ヲ其期限ニ至リ行フタルトキハ他ノ各保証人ヲシテ各々其擔当スヘキ部分ヲ已レニ償ハシメタル若シ其保証人中ニ義務ヲ尽クス能ハサル者アルトキハ其者ノ部分ノ他ノ者ニ分配スヘキヿヲ要ムルヲ得可シ

第六百十六条　保証人ハ主タル義務ヲ行フ前又ハ之ヲ行フヘキノ訴ヲ受ケタルトキ其義務ヲ行フヘキ者ニ其旨ヲ告知スヘシ若シ其告知ヲ為サスシテ主タル義務ヲ行フヘキ者自カラ之ヲ行フタルトキ又ハ其義務ノ効ナアルヘキ言渡ヲ得ヘキ証ヲ立テタルニ於テハ保証人其者ニ對シテ訴訟ヲ為スノ権ヲ失フヘシ

第六百十七条　主タル義務ヲ行フヘキ者ヲ其期日ニ至リ出席セシムヘキヿヲ保証ナル者ハ主タル義務ヲ行フヘキ者若シ其日ニ出席セサルトキハ自カラ其義務ヲ行フヘシ

第六百十八条　若シ右期日ニ至リ主タル義務ヲ行フヘキ者出席シタルトキハ保証人其義務ノ釋放ヲ得可シ

第六百十九条　保証人ハ主タル義務ヲ行フヘキ者ト同時ニ義務ノ釋放ヲ得且ツ其者ト同シク義務ヲ行ハシムヘキ者ノ訴ニ抗拒スル權アリ但シ主タル義務ヲ行フヘキ者ノ一身ニ限リタル権利ハ格別ナリトス

第六百二十條　保証人ハ主タル義務ヲ行ハシムヘキ者ノ自己ノ過失ニ因リ失フタル保証ノ價高ニ至ル迄其保証ノ義務ノ釋放ヲ得可シ

第六百二十一條　若シ主タル義務ヲ行ハシムヘキ者其義務ヲ行ハシムルニ代ヘ一箇ノ物品ヲ受取リタル代ハ縱令外ニ其物品ヲ已レノ所有ナリト述フル者アリト雖ヒ保証人ハ其義務ノ釋放ヲ得可シ

大審院

埃及法律書

民法草案

卷五

大醫院

第七章　名代ノ契約

第六百二十二條　名代ノ契約トハ甲者乙者ノ名目ヲ以テ乙者ノ為メ事ヲ為ス可キノ任ヲ受クル契約ヲ云フ

第六百二十三條　名代ノ事業ヲ執行ヒ始メタル時ハ名代ノ契約ヲ承諾シタルト看做スヿヲ得可シ

第六百二十四條　名代ノ契約ハ報謝ナク之ヲ為シタルモノト看做ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時又ハ其契約ナシト雖モ名代人ノ模様ニ因リ報謝ヲ授受ス可キ定メヲ為シタルヲ知リ得可キ時ハ格別ナリトス

第六百二十五條　契約シタル報謝ノ高ハ常ニ

裁判役ノ裁決ニ任カスヿ可シ

第六百二十六條　名代ノ契約ハ特別ノモノアリ又ハ一般ノモノアリ

第六百二十七條　特別ノ名代ノ契約ハ特ニ定メタル事ト已ムヲ得サル其引続キノ事トニ付キ本人ニ代リ處置ヲ為スノ權ヲ授クルノミトス

第六百二十八條　一般ノ名代ノ契約ヲ為シタル時ト雖モ唯其支配ノ所務ヲ為ス可キノ權ヲ授クルノミトス

第六百二十九條　名代人自認ヲ為シ又ハ誓ヲ為シ或ハ人ニ誓ヲ為スヲ求メ又ハ裁判所ニ於テ訴訟ノ本案ヲ論辯シ又ハ判斷人ノ裁斷ニ任カセ又ハ權利ノ和解ヲ為シ又ハ不動産或ハ不動産ニ付テノ權利ヲ讓リ又ハ人ヲシテ行ハシムル可キ義務ノ未タ消散セサル中ニ其義務ノ保証ヲ拋棄シ又ハ何事ニ因ラス償ヲ契約セサル証書ヲ承諾スルニハ特別ノ名代ノ契約書アルヿ又ハ一般ノ名代ノ契約書中ニ記スル別段ノ權アルヿヲ証セサル可カラス

第六百三十條　本人ノ不動産ヲ讓リ渡ス可キ名代ノ契約書アル時ハ特ニ相定メサル総テノ不動産ヲ讓リ渡スノ權ヲ包含シ又本人ノ權利ニ付キ判斷人ノ裁斷ニ任カセ或ハ其權利ニ付キ和解ヲ為ス可キ名代ノ契約書アル

時ハ特ニ指定メサル權利ト雖モ裁判人ノ裁斷ニ任カセ又ハ其和解ヲ為ス可キノ權ヲ包含ス可シ故ニ概シテ之ヲ言ヘハ一種ノ事業ニ付キ一般ノ名代ノ契約書アル時ハ縱令其事業ヲ特ニ指定メスト雖モ其名代ノ契約ノ効アル可シ但シ債ヲ契約セサル証書ニ管シタル時ハ格別ナリトス

第六百三十一條　名代人ト契約ヲ為サントスル者ハ常ニ其名代ノ契約書ノ公正ナル寫ヲ検視セントスルノ權アリ

第六百三十二條　若シ一箇ノ契約書ヲ以テ名代人数名ヲ任シ各自ニ事ヲ為ス可キノ權ヲ授クル旨ヲ記セサル時ハ其数名合同シテ事ヲ為サヽルヲ得ス

第六百三十三條　名代人更ニ已レニ代テ事ヲ為ス可キ者ヲ在スルノ權ハ本人ヨリ別段之ヲ受ク可シ

若シ本人ヨリ名代人ニ代リ事ヲ為ス可キ者ヲ特ニ指定メサル時名代人ノ択ミタル者其義務ヲ行フ能ハサルニ至リ又ハ事ヲ為スノ能力ナク又ハ著シク怠惰ナルニ於テハ名代人其責ニ任ス可シ

第六百三十四條　如何ナル場合ニ於テモ名代人ニ代リシ者ハ直チニ本人ニ對シ責ニ任ス可シ

第六百三十五條　名代人ハ已レノ大ナル過失ト已レノ意ヲ以テ名代ノ契約ノ如ク執行ハ

サルヿトノ責ニ任ス可シ

第六百三十六條　名代人若シ報謝ヲ得ル時ハ鎖小ノ過失ト雖モ其責ニ任ス可シ

第六百三十七條　名代人ハ時宜ニ適セス其名代ノ權ヲ抛棄ス可カラス又名代人ハ其權ノ終ル可キ方法如何ヲ問ハス其既ニ取捌リシ事業ノ妨害トナラサル樣之ヲ修整ス可シ但シ本人ヨリ特ニ其名代人ヲ廢シタル時ハ格別ナリトス

第六百三十八條　又名代人ノ遺物相続人其名代ノ事ト既ニ取捌リシ事業トヲ知リタル時ハ前条ニ記スル所ト同一ナリトス

第六百三十九條　若シ名代人其名代ノ事ヲ人ニ知ラシメス本人ノ為メ事ヲ為シタル時ハ其義務ヲ已レ一身ニ負フ可シ

第六百四十條　名代人本人ノ名目ニテ且其本人ノ為メ事ヲ為ス旨ヲ人ニ知ラシメタル時ハ名代ノ契約アルヿヲ証スルヿノ外己レ一身ニ義務ヲ負フヿナカル可シ

第六百四十一條　名代人其名代ノ權限ヲ人ニ知ラシメタル時ハ縱令其權外ノ事ヲ為ストヿ雖モ其責ニ任スルヿナシ

第六百四十二條　名代人ハ其所為ヲ本人ニ報告ス且本人ノ為メ受取リタル金高ヲ本人ニ算計ス可シ

第六百四十三條　名代人ハ本人ヨリ金高ヲ渡

ス可キ催促ヲ受ケシ日ヨリ其金高ノ利息ヲ
擔当ス可ク又本人ノ為メ受取リシ金高ヲ已
レノ資益ヲ為メ用ヒタル日ヨリ其金高ノ利
息ヲ擔當ス可シ

第六百四十四條　名代人ハ本人ノ為メ金高ヲ
立替ヘタル日ヨリ其利息ヲ得ルノ權アリ

第六百四十五條　本人ハ已レノ名目ニテ名代
人ノ其契約書ニ回リ員フタル義務ヲ行フ可
ク又名代人ノ其權外ニ為シタル事ハ之ヲ許
認スルト否トヲ相當ノ期限間ニ告知ス可シ

第六百四十六條　本人ハ名代人ニ任カセタル
事業ノ成就シタルト否トヲ問ハス名代人ノ
正當ニ出セシ費用ヲ償フ可シ但シ名代人ニ
過失アル時ハ格別ナリトス

第六百四十七條　名代ノ權ハ左ノ諸件ニ回テ
終ル可シ

名代人ヲ廢スル事
名代ノ權ヲ授ケシ事業ノ成就シタル事
名代人其權ヲ抛棄シテ本人ニ其旨ヲ告知
シタル事
名代人又ハ本人ノ死去シタル事

第六百四十八條　縱令本人ノ死去シ又ハ名代
人ヲ廢シタル時ト雖モ此等ノ事ヲ知ラサル
者ニ對シ之ヲ申立テヽ其訴ヲ抗拒ス可カラ
ス

第六百四十九條　名代人ハ其名代ノ權ノ終リ

ニ至リ其委任ノ契約証書ノ本人ニ還ス可シ

第八章　和解ノ契約

第六百五十條　和解ノ契約トハ双方ノ間ニ既ニ生シタル争ヲ了シ又ハ生セントスル争ヲ預メ防ク可キ為メ双方互ニ其権利ノ一部ヲ抛棄スル契約ヲ云フ

第六百五十一條　国ノ大事ニ管係シタル條件又ハ公ケノ安寧ニ管係シタル條件ニ付テハ和解ノ契約ヲ為ス可カラス然レ𪜈国ノ大事又ハ犯罪条件ノ引続キタル金高ヲ得ル権利ニ付テハ和解ノ契約ヲ為スヿヲ得可シ

第六百五十二條　已レノ権利ヲ随意ニ為スヿヲ得可キ者ニ非サレハ其権利ニ付キ和解ノ契約ヲ為ス可カラス

第六百五十三條　和解ヲ為シ権利ヲ抛棄シタル時ハ特ニ其和解ノ契約書ニ記スル所ノ権利ノミヲ抛棄シタルト看做シ且其契約書ノ文詞如何ナルヲ問ハス其和解ヲ為セシ事ノ目的タル権利ノミヲ抛棄シタルト看做ス可シ

第六百五十四條　和解ノ契約ハ一方ノ詭欺ヲ行ヒ又ハ人或ハ物ヲ錯誤シタル時又ハ和解ノ後ニ至リ其和解ヲ為シタル証書ノ贋造タル

ヲ識認シタル時ニ非サレハ之ヲ取消サント
訴フ可カラス

第六百五十五條　算計ノ錯誤ハ之ヲ改正ス可シ

第六百五十六條　和解ヲ為シタル權利ニ付テノ保証ハ和解ノ契約ノ如ク執行ハシムルニ付テモ亦存続ス可シ然レトモ其保証人又ハ保証ノ為メ損失ヲ受ク可キ者ハ嘗テ其和解ノ前右ノ權利ヲ行フニ抗拒ス可キ総テノ憑據ヲ申立テ其權利ヲ行フ者ノ訴ニ抗拒スルヿヲ得可シ

第六百五十七條　和解ヲ為シタル事業ニ付キ共ニ管係セシ者アル時ハ和解ノ旨ヲ申立テ其者ノ權利ニ抗拒ス可カラス又其者ヨリ和解ノ旨ヲ申立テ和解ヲ為シタル双方ノ權利ニ抗拒ス可カラス

第六百五十八條　総令契約書ニ和解ノ契約書タル名義ヲ附スルト雖モ其実賣買又ハ贈遺ノ契約又ハ何ノ種類ニ限ラス総テ其他ノ契約書タル時ハ右假稱ヲ附シタル契約書ノ其名ノ本義ト齟齬セサルモノヲ除クノ外前数條ニ記シタル規則ヲ右ノ契約書ニ通シ用フ可カラス

第九章　質入ノ契約

第六百五十九條　質入ノ契約トハ負債者其債

ヲ償フノ保証トシテ其債主又ハ双方協議シテ定メタル者ニ物件ヲ渡シ債主ヲシテ全ク其債ノ償ヲ得ルニ至ル迄其物件ヲ留メ且其物件ノ代價ヲ以テ他ノ債主ニ先タチテ債ノ償ヲ得ルノ特權ヲ得セシムル契約ヲ云フ

第六百六十條　若シ質物其質入人ノ手ニ戻ル時ハ質入契約ノ効ナカル可シ

第六百六十一條　一箇ノ質物ヲ以テ相継テ数箇ノ負債ヲ保証スルヿヲ得可シ但シ之レカ為メニハ其質物ヲ保有スル者債主数名ノ筭計ヲ為メ之ヲ保有ス可キヿヲ承諾シタルヲ必要トス

第六百六十二條　負債者若シ其債ヲ償ハサル時ハ其質物ヲ債主ノ所有物ト為ス可キヿヲ契約ス可カラス唯其債主ハ総テ其他ノ債主ト同シク其質物ヲ賣ラント要ムルノ權アルノミトス

第六百六十三條　質物ヲ保有スル者ハ之ヲ監守ス可シ若シ偶然ノ事ニ因リ之ヲ大ノ時ハ質入人ノ損失タル可シ

第六百六十四條　質物ヲ預リタル債主ハ其質物ヨリ一身ノ利益ヲ得可カラス

第六百六十五條　質物ヲ預リタル債主ハ其質物ヨリ生ス可キ総テノ利益ヲ生セシム可ク且其利益ヲ以テ先ツ負債ノ利息ヲ償フニ充テ用ヒ次ニ其元金ヲ償フニ充テ用フ可シ但

シ負債ノ未タ償還期限ニ至ラサル時ト雖モ亦同様ナリトス

第六百六十六條　質物ノ全部ヲ以テ負債ノ各部ヲ保証ス可シ

第六百六十七條　質物ハ動産又ハ不動産タルヲ得可シ

第六百六十八條　他人ノ負債ヲ保証スル為メ物件ヲ質入スルヲ得可シ

第六百六十九條　動産ノ質入ハ日附ノ慥カナル証書ヲ以テ之ヲ証シ且其証書ハ負債ト其質物トヲ十分明カニ指定ムルニ非サレハ他人ニ對シテ其質入ノ効ナカル可シ

第六百七十條　義務ヲ行ハシム可キ権利ヲ質物ト為スニハ其権利ノ証書ヲ渡シ且其権利ヲ移ス為メ必要ナル法式ヲ行フヲ必要トス

但シ商業ニ管シタル規則ハ格別ナリトス

第六百七十一條　不動産ノ質入ハ其証書ヲ不動産書入質役所ノ簿冊ニ登記スルニ非サレハ他人ニ對シテ其効ナカル可シ

第六百七十二條　不動産ヲ質入ト為スト雖モ其証書ヲ不動産書入質役所ノ簿冊ニ登記スル前ニ法ニ適シテ其不動産ヲ付キ得タル物権ヲ害ス可カラス

第六百七十三條　不動産ヲ質トシテ得タル債主ハ其不動産ヲ補理シ及ヒ之ヲ保全スルニ

必要ナル費用ヲ出シ且其租税ヲ納ムル可シ但シ其債主ハ其不動産ノ利益ヲ以テ右ノ出銀ヲ償ヒ又ハ其不動産ノ代價ヲ以テ他ノ債主ヨリ先キニ右出銀ノ償ヲ得可シ

第六百七十四條　前條ノ債主ハ其質物ヲ得ル權ヲ抛棄スルニ因リ右ノ義務ヲ免ルヽヿヲ得可シ

第四篇　債主ノ權利

第一章　債主ノ種類

第六百七十五條　債主ノ種類ニ四箇アリ

第一　通常ノ債主但シ此債主ハ各其貸高ニ准シ負債者ノ諸般ノ財産ヲ以テ償ヲ得可キ者ナリ

第二　不動産書入質ノ權アル債主但シ此債主ハ特ニ定メタル法式ヲ行フタルニ因リ其負債者ニ不動産一箇又ハ數箇ノ何人ノ手ニ移ルヲ問ハス其代價ヲ以テ通常ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得可キ特權ヲ有スル者ナリ

第三　先取リノ特權アル債主但シ此債主

ハ其權利ノ本性ニ因リ特ニ定メタル負債者ノ動産又ハ不動産ノ代價ヲ以テ總テ他ノ債主ヨリ先キニ償ヲ得ルノ特權ヲ有スル者ナリ

第四　引留ノ權アル債主但シ此債主ハ他ノ債主ニ勝リ全ク其償ヲ得ルニ至ル迄其負債者ノ或ル財産ヲ已レニ引留ム可キ特權ヲ有スル者ナリ

第一款　通常ノ債主

第六百七十六條　通常ノ債主ハ法律上ニ定メタル法式ニ循ヒ其負債者ノ諸般ノ財産ヲ以テ償ヲ得可キノ權アリ

第六百七十七條　負債者代價ヲ得テ已レノ財産ヲ賣拂フト雖モ債主ノ權利ヲ害スル為メ之ヲ為シタル時ニ非サルハ債主其故障ヲ述フ可カラス

第二款　不動産書入質ノ權アル債主

第六百七十八條　不動産書入質ノ權ハ債主ト不動産ノ所有者ト裁判所ノ書記局ニ於テ公正ノ証書ヲ記シ其契約ヲ為シタル時ニ非サレハ之ヲ得可カラス

第六百七十九條　已レノ財産所有ノ權ヲ人ニ授スノ權ナキ者ハ不動産ノ書入質ヲ兼諾ス可カラス

第六百八十條　糶賣ニ為ス事ヲ得可キ本性ノ不動産ニ非サレハ書入質ニ為ス可カラス

大審院

第六百八十一條　書入質ト為シタル不動産ニ付テハ其本性ト其所在ノ場所トヲ詳カニ指示ス可ク且負債ノ高ヲ証書ニ指定ム可シ若シ此等ノ事ヲ詳カニ為サヽル時ハ書入質ノ効ナカル可シ

第六百八十二條　一ノ資本金中ヨリ時々金高ヲ拂フヿヲ保証スル為メ又ハ商賣取引ノ渡金ヲ保証スル為メ不動産ヲ書入質ニ為シタル時其時々ノ拂金又ハ取引ノ渡金ノ最大數幾許ナルヤヲ定メ得可キニ於テハ其書入質ノ効アリトス

第六百八十三條　若シ書入質ト為シタル不動産偶然ノ事ニ因リ滅盡又ハ毀損シ保証ノ用ヲ為スニ足ラサルニ至ル時ハ負債者他ノ不動産ヲ書入質ト為シ又ハ償還期限ニ至ラサル前ニ其負債ヲ償フヿ自由タル可シ○若シ負債者又ハ書入質ト為シタル不動産ノ保有者ノ過失ニ因リ其不動産ヲ滅盡シ又ハ毀損シタル時ハ債主右二件中ノ一ヲ択ムヿヲ得可シ

第六百八十四條　将来所有ト為サントスル不動産ノ書入質ハ其効ナカル可シ

第六百八十五條　不動産ヲ書入質ニ為シタル時ハ其不動産ハ勿論之レト分別ス可カラサル附従ノ不動産ト其所有者ノ資益タル可キ手入シ並ニ造築ヲモ亦其書入質中ニ包含ス

可シ

第六百八十六條　不動産書入質ノ権ハ其所有者他人ノ為メニ其所有ノ権ヲ奪ハルヽヿナキ中ニ其不動産所在ノ地ノ書入質役所ノ簿冊ニ書入質ノ証書ヲ記入シタルニ非サレハ之ヲ行フ可カラス但シ家資分散ノ事ニ付キ定メタル規則ハ格別ナリトス

第六百八十七條　不動産書入質ノ証書ノ記入ハ二通ニ記シタル目録（ボルデロー）即チ証書ニ據テ之ヲ為ス可シ但シ此目録ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

第一　債主ノ姓名職業居所及ヒ裁判所ノ管轄地内ニ特ニ其住所ヲ択ミ定メタル事但シ特ニ住所ヲ択ヒ定メタルヿヲ記セサル時ハ相手方ヨリ裁判所ノ書記局ニ諸書類ヲ送達シ其債主ノ住所ニ之ヲ送達シタルト同シキ効アリトス

第二　負債者又ハ不動産ヲ書入質ニ為スヿヲ承諾シタル其所有者ノ姓名、職業、居所

第三　書入質契約書ノ日附及ヒ其契約書ヲ記シタル書記局ノ名

第四　書入質ノ契約書ニ記シタル負債ノ高及ヒ負債ノ償還期限

第五　書入質ト為シタル不動産ノ詳細ナル記載

第六百八十八條　債主数名ハ縱令同日ニ其不

動産書入質ノ証書ヲ記入シタル時ト雖モ其記入ノ順序ニ従ヒ不動産ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得又火災ノ時ハ火災受合ノ高ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第六百八十九條　債主其不動産書入質ノ証書ヲ記入シタル時ハ債ノ元金ノ外其二年間ノ利息ノ保証ヲ得可シ但シ之レカ為メニハ其不動産ノ代價ヲ分配スル時ニ當リ其利息ノ拂期限ニ至リシヿヲ必要トス

第六百九十條　十年ノ後ニ至リ更ニ改メテ記入ヲ為サヽル時ハ其記入ノ効ヲ失フ可シ但シ債主一旦其記入ノ効ヲ失ヒシ後猶法ニ適シテ記入ヲ為シ得可キ時ハ更ニ其記入ヲ為シ其記入ノ時ヨリ其書入質ノ權ノ順序ヲ定ム可シ

第六百九十一條　不動産ヲ糴賣ニ為ス可キ時ハ其期限ノ終リタル後又通常ノ賣買ノ時ハ買主其不動産ノ代價ニ増高ノ有無ヲ問ハス現ニ其代價ヲ提供シテ債主之ヲ承諾シタル後ハ債主其書入質ノ記入ヲ改メ為スニ及ハス

第六百九十二條　書入質ノ記入ヲ塗抹スルニハ控訴ス可カラサルニ至リシ裁判言渡アルヿ又ハ債主ヨリ書記局ニ承諾ノ証書ヲ出シタルヿヲ必要トス

第六百九十三條　記入ノ塗抹ヲ要ムル訴ハ不

大審院

動産所在ノ地ノ裁判所ニ之ヲ為ス可シ但シ負債ニ管スル訴ニ附帯シテ右塗抹ノ訴ヲ為ス時ニ格別ナリトス

第六百九十四條　負債ノ償還期限ニ至リ書入質ノ権アル債主ハ負債者ニ要決ノ書ヲ送リタル上ニテ訴訟法ニ記スル法式ト期限トニ循ヒ其書入質ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フ手続ニ取掛ルヲ得可シ但シ其書入質ノ権アル債主ヨリ負債者ニ對シテ訴ヲ為ス可キ一身ノミニ限リタル権利ヲ行フハ格別ナリトス

第六百九十五條　然レトモ若シ其書入質ノ不動産ヲ外ニ保有スル者アル時ハ債主訴訟法ニ記シタル法式ニ循ヒ其保有者ニ負債ノ償ヒ又ハ其不動産ヲ拋棄ス可キ要決ノ書ヲ送リシ後ニ非サレハ其差押ニ取掛ル可カラス

第六百九十六條　書入質ノ不動産ヲ保有スル者ハ負債ヲ償フテ債主ノ権利ニ代リ又ハ其負債ヲ償フニ代ヘ其不動産ノ買入代價ヨリ少カラサル可キ見積リ代價ヲ提供シ又ハ其不動産ヲ拋棄シ又ハ不動産差押ノ訴訟手續ヲ受クルヿ自由ナリトス

第六百九十七條　保有者ノ負債ヲ償フ権及ヒ不動産ヲ拋棄スル権ハ差押ノ上糶賣ヲ為ス時ニ至ル迄存在ス可シ

第六百九十八條　保有者ハ不動産差押ニ付テ

大審院　大審院

ノ費用及ヒ差押後ノ費用ヲ提供スヘキ但シ保有者ハ負債者及ヒ以前ノ所有者ニ對シ其償ヲ得可キ訴ヲ為スノ権アリ

第六百九十九條　負債ヲ償フニ代ヘ不動産ノ見積代價ヲ提供スル権ハ其差押ニ至ル迫存在スル可ス

第七百條　負債ヲ償フタル保有者債主ノ權ニ代リ其債主ノ書入質記入ノ資益ヲ已レニ得タル時ハ嘗テ保有者ノ其不動産買入ノ証書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシ時存在シタル総テノ書入質ノ記入ヲ塗抹スルニ至ル迫已レノ書入質ノ記入ヲ保ケ置キ改メテ之ヲ記入スル可シ

第七百一條　保有者ハ其不動産ノ見積ノ代價ヲ提供スルト雖モ債主ノ之ヲ承諾シタル時ニ非サレハ其義務ヲ免カル可カラス

第七百二條　保有者ハ催促書ヲ受クルヿナシト雖モ提供ヲ為スヿヲ得可シ

第七百三條　代價ノ見積ハ書入質ト為シタル不動産ノ各部ニ付キ各自ニ之ヲ為ス可シ

第七百四條　負債ヲ償フ可キ期限ノ如何ナル問ハス現金ニテ提供ヲ為ス可ク其他ノ方法ニテ之ヲ為ス可カラス

第七百五條　其提供ノ書面ハ書入質ノ権ヲ記入シタル各債主ノ其記入ノ文中ニ指定メタル住所ニ送達シ且其書面ニ添ヘテ左ノ諸件

ヲ報告スヘシ

第一　不動産買入ノ契約書但シ其契約書ニハ契約ヲ為ス者ノ姓名、契約シタル代價及ヒ其契約ノ費用並ニ不動産所在ノ地

第二　買入ノ契約書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル日附及ヒ番号

第三　書入質証書ノ日附及ヒ其証書ヲ記入シタル日附及ヒ債主ノ姓名ヲ記載シタル現存ノ書入質記入ノ目録

第七百六條　各債主最終ノ提供ノ書面ヲ受取リタル時ヨリ六十日内ニ訴訟法ニ記シタル法式ニ循ヒ書記局ニ糶賣ヲ為スノ届書ヲ出サヾル時ハ其提供ヲ承諾シタルト看做スヘシ

第七百七條　右六十日ノ期限ハ債主ノ真ノ住所ト其特ニ択ミ定メシ住所トノ間ノ距離ニ准シ更ニ猶豫ヲ加フヘシ然レトモ其猶豫ノ期日ハ六十日ヨリ多クタルヘカラス

第七百八條　不動産ノ糶賣ニ付キ各債主ノ管係スル所ハ其得可キ高ノ償還ニ充テタル其不動産ノ一部ノミニ限ルヘシ

第七百九條　糶賣ノ届ヲ為シタル時ハ書入質ヲ記入セシ総テノ債主ノ承諾スルニ非サレハ之ヲ止ムヘカラス

第七百十條　一旦届出シタル糶賣ヲ止メルニ

ハ不動産所在ノ地ノ裁判所ノ書記局ニ其旨ヲ屆ク可シ

第七百十一條　債主中何人ニテモ至急吟味裁判役ニ不動産ノ附託ヲ受ク可キ者ヲ任ス可キ訴ヲ為シ其者ニ對シテ不動産差押ノ手續ヲ為ス可シ

第七百十二條　不動産ノ保有者自カラ其附託ヲ受ケント願出ル時ハ之ヲ其者ニ附託ス可シ

第七百十三條　不動産ノ保有者之ヲ抛棄シ又ハ其差押ヲ受クル時ハ嘗テ負債ヲ償ヒ又ハ不動産ヲ抛棄ス可キ催促ヲ受ケシ以来其不動産ヨリ生タル総テノ利益ヲ還ス可シ但シ債主其催促ノ効ヲ失フタル時ハ格別ナリトシ且三年ノ後ニ至レハ當然其催促ノ効ヲ失フ可シ

第七百十四條　保有者ノ出シタル費用ハ糶賣代價中ニ加フ可シ

第七百十五條　不動産ヲ糶ニテ買入ル丶者ハ代價ノ外己ムヲ得サル費用ヲ其保有者ニ償ヒ且有益ナル費用ヲモ亦不動産ノ増價ニ至ル迄其保有者ニ償フ可シ

第七百十六條　保有者ハ己レノ所為又ハ過失ニ因リ其不動産ヲ毀損シタルノ責ニ任ス可

第七百十七條　保有者嘗テ不動産ヲ買入ル丶

前ニ其不動産ニ付キ有シタル上地ノ権利及ビ物権ハ更ニ之ヲ獲ス可ク又其者ノ嘗テ有シタル書入質ノ権モ亦之ヲ獲ス可シ然レトモ其書入質ノ記入ノ効ヲ失フヿナク又之ヲ塗抹スルヿナキ時ニ非サレハ其書入質ノ権ヲシテ以前ノ順序ヲ保タレム可カラス

第七百十八條　若シ糶賣ノ代價、書入質ノ記入ヲ為シタル各債主ニ償還ス可キ高ニ過クル時ハ保有者ヨリ其不動産ヲ書入質ニ取リタル債主以前ノ所有者ノ債主ニ次キ其代價ノ餘分ヲ以テ其得可キ高ノ償還ヲ受ク可シ

第七百十九條　不動産ノ保有者代價ヲ出シテ之ヲ買入レタル時其所有ノ権ヲ奪ハレ又ハ之ヲ抛棄シタルニ於テハ以前ノ所有者ニ對シ其償ヲ得ルノ訴ヲ為スヿヲ得可シ又其保有者ハ如何ナル場合ニ於テモ名義ノ如何ヲ問ハス其拂出シタル金高ノ償還ヲ負債者ニ要ムルノ権アリ

第七百二十條　又不動産ノ保有者之ヲ保ツヿヲ得又ハ糶ニテ之ヲ買入レタル時ハ名義ノ如何ヲ問ハス其以前ノ買入契約書ニ定メタル高ノ外其拂出シタル金高ノ償還ヲ負債者ニ要ムルノ権アリ

第七百二十一條　裁判所ノ命ニテ不動産ヲ糶賣ニ為シタル時之ヲ買入レシ者ハ後ニ之ヲ抛棄ス可カラス○其者ハ書入質ノ記入ヲ為

シタル各債主ニ其買入代價ヲ拂フ可ク更ニ
餘分ヲ拂フニ及ハス但シ訴訟法ニ記シタル
糶賣ノ規則ハ格別ナリトス

第三款　先取取リノ特權アル債主

第七百二十二條　左ノ諸件ニ付テハ債主先取
リノ特權ヲ行フヿヲ得可シ

第一　負債者ノ財産ヲ保全シ及ヒ人ヨリ
其財産ヲ取戻ス為メノ裁判所費用但シ
此費用ヲ出シタル者ハ之レカ為メ資益
ヲ受クル債主ニ先タチテ右財産ノ代價ヲ
以テ其償還ヲ得可シ

第二　財産ノ賣拂又ハ其差押又ハ家資分
散ノ前一年間ノ雇人給料及ヒ六月間ノ
工丁又ハ手代ノ給料但シ此給料ハ裁判
所費用ニ次キ其償還ヲ得可シ

此先取リノ權ハ負債者ノ動産及ヒ不動
産ニ付キ之ヲ行フヿヲ得可シ

第三　本年ノ收納物ニ付テノ費用及ヒ其
收納物ヲ生シタル種子ニ付テノ費用ハ
此順序ニ從ヒ前ニ記シタル二種ノ特權
ニ次キ其收納物ノ代價ヲ以テ其償還ヲ
得可シ

此三種ノ特權ハ之ヲ記入シタルト否ト
ニ管セス之ヲ行フヿヲ得可シ

第四　負債者ノ現ニ保有スル農業器具ニ
付キ得可キ金高但シ其金高ハ裁判所費

用及ヒ雇人等ノ給料ニ次キ右器具ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第五　家屋又ハ土地ノ貸賃及ヒ總テ此等ノ名義ヲ以テ貸主ノ得可キ金高但シ此等ノ金高ハ右ニ記スル四種ノ特權ニ次キ賃借シタル家屋ニ備ヘシ總テノ動産又ハ土地ノ賃借人ニ屬スル本年ノ收納物ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ但シ其收納物ヲ右賃借シタル土地外ニ貯ヘタル時ト雖モ亦同樣ナリトス

第六　負債者ニ物件ヲ賣リタル者ノ得可キ金高又ハ負債者ノ人ヨリ物件ヲ買入ルヽ其代價ニ供スル旨ヲ日附ノ慥ナル

証書ニ別段記入シ負債者ニ金高ヲ貸シタル者ノ得可キ金高但シ此等ノ金高ハ賣買シタル動産ニ付テハ商業上ノ規則ヲ除クノ外買主即チ負債者ノ之ヲ保有スル間其動産ノ代價ヲ以テ其償還ノ特權ヲ得又不動産ニ付テハ賣買ノ証書ヲ法ニ適シテ役所ノ簿冊ニ登記シタル時其不動産ノ代價ヲ以テ其償還ノ特權ヲ得可シ

此不動産ニ付テノ特權ハ登記ノ日附ノ順序ニ從フ可シ

第七　旅舍ノ主人ノ得可キ金高但シ此金高ハ旅客ノ荷物ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第七百二十三條　不動産ヲ共通シテ之ヲ分派スル者ハ其不動産ニ付キ先取リノ特権ヲ有ス可シ但シ其特権ハ別段ノ契約ナシト雖モ書入質役所ノ簿冊ニ之ヲ記入シタルニ因リ其記入ノ順序ニ従テ之ヲ保有ス可ク若シ其不動産ノ分派ニ付キ其共通者中ノ一人ニ損害ヲ生スル時ハ其一人ヨリ之ヲ訴フルヿヲ得可シ

第七百二十四條　負債者ノ動産ヲ保全スル為メ裁判所費用ヲ出シタル者ノ権ハ総テ其他ノ債主ニ先タケ又其費用ヲ出シタル数人中ニ於テハ其証書ノ日附ニ反對シタル順序ニ従ヒ右動産ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第七百二十五條　前條ニ記シタル以外ノ動産ニ付テノ特権ハ他ノ律例又ハ特別ナル法律ニ之ヲ規定ス

第四款　財産引留ノ権アル債主

第七百二十六條　特別ナル場合ニ於テ法律上ニ定ムル財産引留ノ権ノ外左ノ各人ハ其引留ノ権ヲ有ス可シ

第一　財産ヲ質ニ取リタル先取リノ特権アル債主

第二　財産ヲ良好ニ為スタメ費用ヲ出シタル者

第三　財産ニ付キ己ムヲ得サル費用又ハ財産ヲ保全スル為メノ費用ヲ出シタル

者

第二章　物権ノ證

第七百二十七條　何事ニ限ラス財産所有ノ権及ヒ財産ニ付テノ物権ハ以前ノ所有者ニ對シテハ所有ノ権又ハ物権ヲ授ス契約書ニ曰リ又ハ法律上ニテ此等ノ権ヲ授ス可キ効アリト定ムル諸件ノ契約書ニ曰リ之ヲ証ス可シ

第七百二十八條　動産ニ付テハ其所有者タルノ名義ヲ以テ正実ニ之ヲ保有スルニ曰リ如何ナル人ニ對スルト雖モ其所有ノ権アルノ証ト為ス可シ

第七百二十九條　現ニ動産ヲ保有スル時ハ其所有者タルノ名義ヲ以テ正実ニ之ヲ保有スモノト看做ス可シ但シ之ニ反シタル証アル時ハ格別ニシテ又遺失盗奪ノ場合ハ例外ナリトス

第七百三十條　不動産ニ付テハ之ヲ得可キ権アリト述タル者ニ對シ後條ニ記スル左ノ規則ニ循ヒ其物権ノ証ヲ立ツ可シ

第七百三十一條　遺物相続ニ因リ得タル不動産所有ノ権又ハ其不動産ノ分派ハ如何ナル人ニ對スルモ其証書ヲ以テ証ト為ス可シ

第七百三十二條　書入質ト為スヲ得可キ不動産所有ノ権又ハ物権ヲ移ス生存中ノ証書ヲ

リ生スル權利又ハ土地ノ權「ユザーシュ」ノ權「アビタシヲン」ノ權、不動産質入ノ權ヲ設ケ定ムル生存中ノ証書ヨリ生スル權利又ハ此數種ノ權ヲ抛棄スル生存中ノ証書ヨリ生スル權利ハ不動産ニ付キ物權ヲ得可シト述フル者ニ對シテハ不動産所在ノ地ヲ書入質役所ノ簿冊ニ右ノ証書ヲ登記シタルニ因リ其証アリトス

第七百三十三條　前條ニ記シタル各種ノ權ヲ確定シ又ハ之ヲ設ケ定ムル裁判言渡書ハ亦之ヲ役所ノ簿冊ニ登記ス可シ

第七百三十四條　不動産糶賣ノ言渡書及ヒ不動産ヲ分派スル証書又ハ言渡書ハ亦前條ニ記スル如ク之ヲ登記ス可シ

第七百三十五條　九年以上ノ不動産賃貸ノ証書及ヒ其賃貸三年分以上ノ前拂ノ証書ハ不動産ニ付キ物權ヲ得可シト述フル者ニ對シ証ト為サントスルニハ役所ノ簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第七百三十六條　裁判所費用及ヒ雇人手代工丁ノ給料ヲ除クノ外不動産ニ付キ債主ノ先取リノ特權並ニ不動産書入質ノ權ハ後ニ記スル法式ヲ以テ亦之ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入ス可ス

第七百三十七條　登記又ハ記入ヲ為ス可キ時若シ之ヲ為サヽルニ於テハ不動産ニ付キ物

大審院

権ヲ有シ旦法律ニ循ヒ其物権ヲ保全シタル者ニ對シテハ前数條ニ記列シタル各種ノ権ノ効ナシト看做ス可シ

第七百三十八條　然レトモ不動産ニ付キ物権ヲ有シ旦法律ニ循ヒ其物権ヲ保全シタル者ハ九年以上ノ賃貸ノ契約ヲ九年ニ減シ又三年以上ノ前拂金ノ三年分ニ減シ其餘分ヲ償還セシムルノ権アルノミトス

第七百三十九條　前数條ノ規則外ニ於テ已レノ証書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セシ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル者又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ハ其登記ヲ為ス前ニ日附ノ慥カナル証書ニ因リ書入質ト為ス可キ不動産所有ノ権ヲ代價ヲ出シテ買入シタル者又ハ「ユザーシユ」或ハ「アビシヲン」ノ権ノ入額所得ノ権ヲ代價ヲ出シテ買入シタル者ニ對シ其賣買証書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セサル旨ヲ述ヘ其者ノ権利ニ抗拒ス可カラス

第七百四十條　又右ノ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ代價ヲ出シテ其権ヲ買入シタル者自カラ其証書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シ又ハ其特権ヲ其簿冊ニ記入シタルニ於テハ前条ニ記シタル買入人ノ権利ニ抗拒スルヿヲ得可シ

第七百四十一條　所有者数人ニ引続キテ其所有ノ権ヲ移ス契約書数通アル時ハ其中最終ノ契約書ノミヲ登記スルヲ以テ足レリトス

第七百四十二條　物件ノ賣主ハ其賣買ノ証書ヲ簿冊ニ登記スル前ニ其買主又ハ其代權人ヨリ得タル物權ヲ法ニ適シテ公ケニ為シタル者ニ對シ其賣買ノ契約ヲ解除ス可キ權アル旨ヲ述ヘ其者ノ權利ニ抗拒ス可カラス

第七百四十三條　物件ノ賣主ハ其保有者ノ家資分散公告ノ裁判言渡アル前ニ其賣買ノ契約ヲ解除ス可キ權アル旨ヲ役所ノ簿冊ニ登記セサル時ハ其權ヲ失フ可シ

第七百四十四條　此章ノ規則ハ新ナル裁判所ヲ設ケタル後ニ非サレハ之ヲ適用ス可カラス

第三章　不動産書入質ノ書記局

第七百四十五條　各裁判所ノ書記局ニ於テ各紙面毎ニ裁判役ノ記号ヲ附シ及ヒ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シタル簿冊ヲ設ケ置キ書記官其順序ノ番号ヲ定メテ此篇ニ記スル如ク此簿冊ニ登記及ヒ記入ヲ為ス可シ

第七百四十六條　又書記官ハ前条ニ記スル如ク記号ヲ附シ及ヒ横線ヲ畫シタル簿冊ヲ設ケ置キ登記及ヒ記入ノ証書又ハ謄録（ガルデ）ヲ其受取リタル順序ニ役ヒ其簿冊ニ記ス可シ

第七百四十七條　其簿冊ハ毎日之ヲ修整ス可シ

第七百四十八條　其簿冊ニ記スル順序ノ番号ハ第七百四十五條ニ記スル所ト同一タルヿ可シ

第七百四十九條　登記又ハ記入ニハ証書又ハ目録ヲ受取リタル日附ヲ附記ス可シ

第七百五十條　登記又ハ記入ハ証書又ハ目録ヲ受取リタルヨリ遅クモ八日内ニ之ヲ為ス可シ

第七百五十一條　裁判所ニ於テハ其時ノ都合ニ因リ奇数ノ日トニ登記又ハ記入ヲ為ス簿冊ニ箇又ハ数箇ヲ設クルヿヲ許ルスヲ得可シ

第七百五十二條　登記ヲ為スタメノ証書又ハ記入ヲ為スタメノ書入質ノ目録ヲ受取リタル時其差出人ニ与フ可キ受取書ニハ簿冊ノ番号ト之ヲ受取リタル日時トヲ記ス可シ

第七百五十三條　証書ヲ受取リタルノ記載及ヒ登記或ハ記入ヲ為スニハ剩白塗抹書入シ摩刪等ヲ為ス可カラス○若シ端書ノ符号又ハ塗抹シタル文字アル時ハ裁判役其日ニ之ヲ允諾シ本人ヨリ差出シタル証書ト校合セシ後允諾ノ文ニ其日附ヲ附記ス可シ

第七百五十四條　法律上ニ書記官其公務ヲ以テ自カラ登記又ハ記入ヲ為ス可キヿヲ定メタル時ノ外ハ本人ノ願ニ因テ其登記又ハ記入ヲ為ス可シ

第七百五十五條　登記トハ証書中財産所有ノ

大審院

権ヲ移スニ管シタル部分ノ文面ヲ記スルヲ云フ

第七百五十六條　本人ノ差出シタル証書ニハ其登記ノ旨ト其登記ノ日附其番号及ヒ簿冊ノ紙面ノ番号ヲ附記シテ之ヲ本人ニ還ス可シ

第七百五十七條　記入トハ第六百八十七條ニ記シタル諸件ヲ記列セシ本人ノ差出セシ目録ノ文面ヲ記スルヲ云フ

第七百五十八條　本人ノ差出シタル目録ニハ之ヲ記入シタル旨ト其記入ノ日附其番号及ヒ簿冊ノ紙面ノ番号トヲ附記シテ之ヲ本人ニ還ス可シ

第七百五十九條　書記官ハ登記及ヒ記入ノ旨ヲ附記シタル所ニ其姓名ヲ手署ス可シ

第七百六十條　書記官ハ帳簿（ヘルトワル）二冊ヲ設ケ置キ其一冊ニハ「アベセ」ノ順序ヲ以テ所有ノ権ヲ移セシ以前ノ所有者ノ姓名及ヒ不動産ヲ書入質ニ為シタル負債者ノ姓名ヲ記列ス可シ」又一冊ニハ「アベセ」ノ順序ヲ以テ登記ノミヲ記列ス可シ

第七百六十一條　登記ノミヲ記スル帳簿ニハ登記ス可キ証書ニ指示シタル以前ノ所有者ノ姓名ヲ附記ス可シ但シ既ニ一旦其所有ノ権ヲ移セシ旨ヲ登記セシ以前ノ所有者ノ姓名ハ更ニ之ヲ附記スルニ及ハス

第七百六十二條　書記官ハ願人ノ求メニ從ヒ記入及ヒ登記ノ総目録又ハ別段ノ目録ニ據リ其登記シタル証書ノ寫又ハ現存スル記入文面ノ寫ヲ渡シ或ハ其登記及ヒ記入ノアラサル旨ヲ証スル證書ヲ渡ス可シ

第七百六十三條　又書記官ハ願人ノ求メニ從ヒ帳簿ノ寫ヲ渡ス可シ

第七百六十四條　書記官ハ若シ己レノ過失又ハ其指令スル者ノ過失ニ因リ文字ヲ脱落シ又ハ誤謬シテ之レカ為メ本人ノ損害ヲ生スルニ於テハ之ヲ償フ可キノ責ニ任ス可シ

第七百六十五條　若シ債主書記官ヨリ受取リタル誤謬アル受合書ノ為メ其權ヲ失ヒ又ハ其誤謬アル受合書ニ據リ買入ノ契約ヲ為シタル者之レカ為メ損害ヲ受ケタル時ハ其書記官ニ對シテ訴ヲ為スヿヲ得可シ

第七百六十六條　書記官ハ其公務ヲ以テ不動産糶賣ノ裁判言渡書ヲ登記ス可シ若シ之ヲ登記セサル時ハ五百「ピアストル」ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第七百六十七條　其登記ノ費用ハ糶ニテ買入レタル者之ヲ擔當ス可シ

第七百六十八條　書記官ハ其公務ヲ以テ記入及ヒ登記ノ端ニ其登記シタル証書ヲ取消シ又ハ其証書ノ義務ヲ解除スル裁判言渡書ヲ附記シ且此法律ノ適用スル前ニ日附ノ慥カニ

シテ未タ登記セサル所有ノ権ヲ移ス証書ニ付テノ裁判言渡書ヲ登記スヘシ若シ之ヲ登記セサル時ハ五百ピアストルノ罰金ヲ言渡サルヘシ

第七百六十九條　第七百六十六條及ヒ第七百六十八條ノ場合ニ於テハ書記官此ニ條ニ記スル附記及ヒ登記ヲ求ムルノ権アリテ之ヲ求メサル者ニ對シ償ヲ為ス可キノ責ニ任スルヿナシ

埃及法律書　民法草案　終

大審院